

あとでみると、石の上に馬のひずめの跡が残っていました。家来たちはだきついて向う側に渡ったので、だきつき石とよばれています。

《第二十九話》

目洗いの湯（野上）

野上字老神前うはがみにあり。今は昔の言葉に、「沢に木を伐る杣人そまも、数多山越す旅人りょじんも、此処姥ヶ前に至れば、眼霞かすみみ、前途朦朧もうろうとして見え別わかかず。神を祈りて流れに嗽すすぎ、目を洗えば、不思議や水に験なげありて眼冴さえ、以前の自分の目とも思えぬ程、万象ばんざうあざやかに見別わかくるを得たり。」と。えぞ玉の湯の下を流るる川添えに今も盛んに湧き出する目洗いの湯なり。